



GlänZ

構成担当

久富 朱莉

イラスト担当

川越 珠希

議長

山田 梨乙菜

英進館大橋校



目次

- 1.序論～人種差別について～
- 2.アメリカにおける黒人差別の根幹
 - 2-①奴隷貿易について
 - 2-②南北戦争と奴隷解放宣言
 - 2-③その他のアメリカ社会における黒人トピック
- 3.問題提起～人種差別とは？～
- 4.日本における人種差別問題
 - 4-①男女格差
 - 4-②同和問題（1）
 - 4-③同和問題（2）
- 5.人種差別を解決するためには
- 6.まとめ～平等な社会を実現するために～



序章

～人種差別について～

皆さんは「BLM」運動という言葉を知ったことがありますか？

「BLM」とは「Black Lives Matter（黒人の命は大切だ）」という意味であり、アフリカ系アメリカ人のコミュニティに端を発した黒人に対する暴力や構造的な人種差別の撤廃を訴える国際的な運動のことをBLM運動と呼びます。昨年ニュースなどでよく耳にしたこの運動の発端は、2020年春アメリカの中西部ミネソタ州ミネアポリスで、黒人のジョージ・フロイド氏が白人警官に殺害された事件に対するデモ運動でした。

この運動によって、アメリカでは今もなおこういった白人と黒人による人種差別問題が存在していることを、私達も再認識させられました。

そもそもこういった、白人と黒人の人種差別問題の根幹とは何なのでしょう。

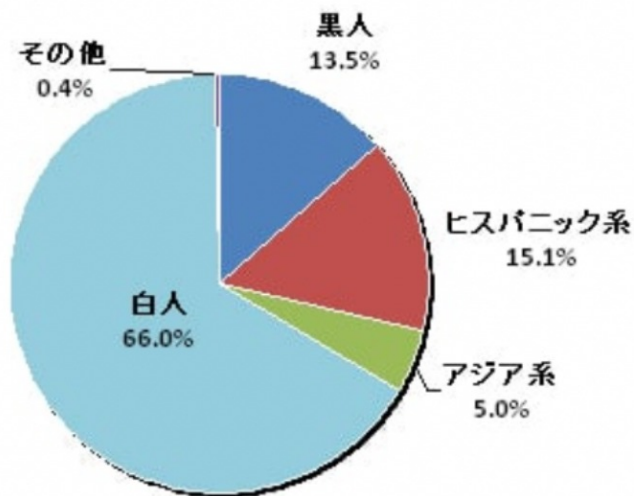


アメリカにおける黒人差別の根幹

そもそもアメリカ社会というのは、「人種のるつぼ」と言われるようにさまざまな人種の人々が共存する多文化・多人種社会です。

もともとアメリカ大陸に存在した先住民に加えて、15世紀以降コロンブスの新大陸発見がきっかけで多くの移民がアメリカ大陸を訪れることとなりました。

この時アメリカを訪れたヨーロッパ系民族がアメリカ社会における「白人」のルーツであり、「黒人」は奴隷貿易によって労働力としてアフリカから連れてこられた人々がルーツとされます。

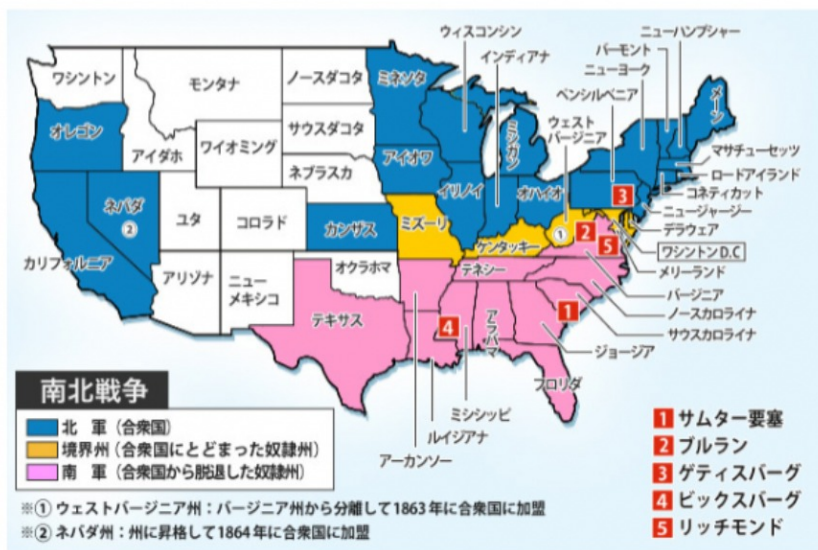


奴隷貿易の様子

アメリカにおける黒人差別の根幹

その後、アメリカ社会では長期に渡り黒人と白人の人種差別問題が滞在し続けることとなります。

中でもアメリカ史上最大の内戦である「南北戦争」は黒人の奴隷問題を発端として起きた戦争であり、北部を率いたリンカーン大統領による「奴隷解放宣言」により、黒人奴隷制度は廃止されることとなりました。ですが、人々の心の根底には「黒人＝奴隷」という意識は残り続けることとなります。



アメリカにおける黒人差別の根幹

その他のアメリカにおける黒人トピック



I have a dream.
の演説で有名な
キング牧師



黒人初大統領
バラク・オバマ氏



人種差別とは？



人種差別。これは、私たちの身の回りで起こっている世界的な問題です。人種差別の中で、最近よく耳にするのは黒人や白人など見た目だけで相手を傷つけるような問題です。ですが、人種差別の「人種」という言葉の意味には、地位・職業・環境などによる生活習慣や気質の違いも含まれます。そのため、私たちはこれらによる差別も人種差別にあたるのではないかと考えました。



日本における人種差別問題～男女格差～

2019年版男女格差報告の 主な順位

1位		アイスランド	
2		ノルウェー	
3		フィンランド	
...			
10		ドイツ	G7首位
...			
16		フィリピン	アジア首位
...			
53		米 国	
...			
106		中 国	
...			
108		韓 国	
...			
120		アラブ首長国連邦(UAE)	
121		日 本	G7最下位
...			
153		イエメン	全体最下位

2019年の日本の男女格差報告は、全世界で121位、G7の中で最下位と世界の中でも多い方です。上位であるアイスランドやノルウェー、フィンランド、ドイツなどは全てヨーロッパの国々であることが読み取れます。

男女格差報告とは政経面での、あらゆるデータをもとに算出されます。政治面では諸外国に比べて日本は未だに、女性議員や閣僚の少なく男女格差が生まれていると言えます。また、経済面では平均所得格差が挙げられます2017年では男性の月額所定内給与が約34万円、女性では約26万円とその差は8万円となり、月収レベルではかなり大きな格差であると言えます。実際、女性管理職の少なさなどは社会問題になりつつあります。



日本における人種差別問題～同和問題～

環境などによる生活習慣や気質の違いに目を向けても、日本国内でも多くの問題が出てきます。では、日本にはどのような差別があるのでしょうか。私たちの身の回りで多く起こっている問題として、同和問題が挙げられます

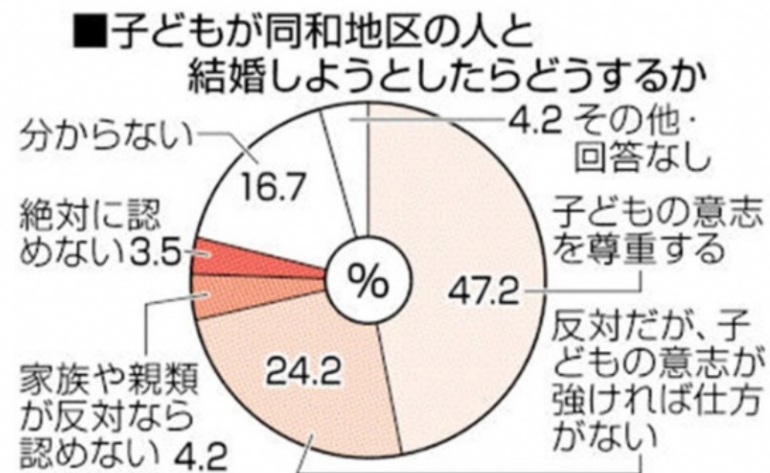


。同和問題とは、特定の地区の出身であることや、その地区に住んでいるというだけで差別をされるという現在も続いている重大な社会問題です。同和問題による影響は、こういった場面で見られるのでしょうか。



日本における人種差別問題～同和問題～

このグラフは、子どもが同和地区の人と結婚しようとしたらどうするかというアンケートを行った結果です。このグラフからわかることは、子どもの意志を尊重すると回答している人が半分近くいる一方で、約3割の人が反対や認めないと回答していることです。また、これらのことから、日本人の潜在意識の中に同和問題が根付いているということもわかります。



人種差別を解決するためには

私たちが今からできることは互いの個性を認め合い、理解し合うことです。それぞれが、国や人種、性別を正しく理解することで平等で誰もが心地よく暮らせる社会を実現することができると思います。また、家族や友達と意見を交わす中で相手の考え方を取り入れ、様々な見解を持つことも大切です。

このような世の中を築いていくためには、義務教育の中で人種差別に関する授業をより多く取り入れたたり、外国の方々と接する機会を設けたりしていくことが必要だと思います。



まとめ～平等な社会を実現するために～

私たちが提案する方策は、外国の学校と姉妹校連携授業を行うことです。給食に他国のメニューを取り入れたり、家庭科の授業で作ってみたりするなど実際に友達と体験することで、より他国の文化に興味や関心を持つことができます。さらに、他国の伝統的な民謡や遊びにふれあう機会があれば、他国との文化の違いを知ることができます。そして、そのような文化ができた背景も含めて授業をすることで、より正確な知識を得ることができると思います。

人種差別をなくし完全に平等な社会を実現させるためには時間がかかると思いますが、こういった潜在意識の一つ一つを変えていくことで将来、差別のない平等な社会が実現していくことを願います。